



2026.6.15
第190号

発行
村議会 支会 支会
町議会 支会 支会
市協議会 支会
県教育連 北麻沼
福島教育連 北麻沼

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

はじめての徒歩通勤



会津教育事務所
所長 芳賀 稔

教員になり、三十数年になり
ますが、今年度はじめて「徒歩
通勤」になりました。

私が住んでいる公舎から、川
沿いの道と国道を歩いて片道
二十分程度なのですが、実にい
いです。穏やかな川の流れ、競
い合うように咲く花たち、日ご
とに緑を増す水辺の植物たち、
水遊びをしているであろう鳥た
ちを日々眺めながらさわやかな
気持ちで出勤することができて
います。また国道では、小・中・
高校生の登校と重なり、少し学
校に勤務しているような気持ち
になりうれしくなります。

帰宅時もまたいいです。晴れ
た日の夕焼けは美しいですし、
一日を終えて帰路につく人々の
安堵の表情、微笑ましい親子連
れもよく見かけます。

これまで車で通勤していた時
には見られなかった風景を見る
ことができるのは新鮮で、実
にいいです。きつと、見ることで
私自身が何かを感じ、感情が動
き豊かな気持ちになるのだと思
います。改めて見るこの大切
さを実感しています。

教師になりたての頃、ベテラ
ンの養護教諭に教えていただい
たことを思い出します。

「芳賀先生は生徒を見てない
よ。まずしっかりと生徒を見て
。それが生徒を認める第一歩。
『見る』が『見止める』、そして
『認める』になるんだよ。」

当時の私は忙しさにかまけ
て、見えてはいました。生徒
を本当の意味では見てはいな
かったのかもしれない。

身の回りのことをしっかりと
自分の目で見ることが大切だと
改めて実感しています。出勤時
の川の様子も、帰宅時の夕焼け
も、見ようとしなければ見える
だけの風景にすぎません。見る
から日々の変化に気付き、見る
からたくさんのことを感じるこ
とができます。

見る、観る、診る、視る、看
る、とたくさんの「みる」があ
り、それぞれ意味があると思
いますが、難しく考えず、まずは
目を向けて「見る」、これが大切
だとはじめての徒歩通勤が私に
教えてくれました。

管理関係重点事項

令和八年度「会津教育事務所推進プラン」の
視点⑥「持続可能な教育環境づくり」の取組に
より、教員の力、学校の力が最大となるよう、
域内市町村教育委員会や学校、地域、関係機
関との連携を密に図り、管理業務を推進してま
います。

1 教職員の心身の健康保持や児童生徒と向き合う
時間・自己研鑽の時間を確保するため、管理訪問
等の指導助言により「教職員働き方改革アクション
プラン」に基づく取組の推進を図ります。

○ 令和八年二月改訂の「教職員働き方改革アク
ションプラン」の目的や目標を踏まえて、業務
の効率化や教職員間の業務の平準化を推進する
とともに、各学校の実態に応じた業務改善の取
組を支援します。今年度は、県の重点である
「教頭の業務負担軽減」に向けた取組の啓発に
努めます。

2 学校全体の教育力向上を図るため、校長研修会
等において内容を充実させ、校長によるチームと
しての学校マネジメントが機能するよう支援しま
す。

○ 各種会議や所長・管理訪問等での指導助言を
通して、校長のリーダーシップによる学校マネ
ジメントの強化に努めます。

3 管理職の危機管理意識の向上や教職員の倫理
観・使命感の高揚を図るため、域内服務倫理対策
会議等、様々な機会を設けてまいります。

○ 令和八年三月改訂の「不祥事根絶プロジェクト」
の趣旨及び取組内容を周知するとともに、「
信頼される学校づくりを職場の力で（令和八
年三月改訂版）」等の活用促進や、危機管理に
係る情報提供に努めます。今年度は、校内服
務倫理委員会における外部講師の活用など、マ
ネリ化の防止に向けた取組の啓発に努めます。

会津教育事務所は、学校課題の解決が図られ
るよう、市町村教育委員会と連携して人事事務
を推進するとともに、学校・家庭・地域が一体
となって人間力に満ちた人材の育成に努める
「会津の教育」を支援してまいります。

社会教育関係の重点事項

～家庭の教育力・地域の教育力の向上を目指して～

1 25周年記念「ふくしまを十七字で奏でよう」

あかべこが コクリコクリと 昼ねする (子)
赤べこも 子どもと一緒に 夏休み (母)

昨年度のふるさと部門・最優秀作品です。(会津管内から出品)

家庭や地域における人と人との関わりの中で感じた思いや願い、震災からのさらなる復興を願った「ふくしま」への思いや震災を乗り越えてきた気持ちを十七音で表現した作品を県内外から募集しています。

今年度は、25年目の開催となります。また、福島県政150周年も重なり、ふるさと部門では「県政150周年賞」の予定もあります。

夏季休業中の課題として、親子やきょうだいでの作品作りのみならず、「日常使いの十七字のふれあい」に挑戦してみてもはいかがでしょうか。

例えば、国語の授業における、川柳の学習として行ったり、運動会や修学旅行・宿泊学習等の行事の振り返りとして行ったりして、十七字のふれあいを学習活動に入れてみてはいかがでしょうか。そのまま出品することも可能です。是非、学習の一環としてご活用ください。

2 会津教育事務所社会教育課公式LINE開設しました

会津域内での読書活動、家庭教育、地域学校協働活動などのお知らせや、各種研修会などの最新情報をお届けするため、公式LINEを開設しました。総務社会教育課からの情報はもちろん、学校教育課(管理・指導担当)からの情報も、適宜アップしてまいります。是非、友だち追加をお願いします。

また、保護者の皆様や、学校にいらっしゃる読書ボランティア等の方にもお声掛けください。



QRコードを読み取るか
URL【<https://lin.ee/w4bYaEq>】入力で追加できます。

<社会教育課 研修会・イベント等案内>

- ◇読書活動支援者育成事業地区別研修会
 - 7/31 (金) 県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター
- ◇地域連携担当教職員等研修会
 - 8/17 (月) 北会津支所ピカリンホール

- ◇ビブリオバトル会津地区予選会
 - 8/29 (土) 会津若松市文化センター
- ◇地域学校協働研修会
 - 10/1 (木) 県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター
- ◇家庭教育支援者地区別研修会
 - 11/9 (月) 北会津公民館

令和8年度 会津教育事務所 指導の重点【前期】

会津の強み【令和7年度の学校訪問や各校の学力向上の取組、各種研修会協議から】

- 「授業改善ランドデザイン」や「学びの変革 授業デザイン」を活用しながら、主体的・対話的で深い学びの視点に基づいたICT活用等の工夫による授業展開など、教職員が丸となって授業改善に取り組んでいる学校が増えている。
- 生徒指導の機能やユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりにより、すべての児童生徒の心理的安全性を高める授業や「分かる・できる」授業を目指した授業が増えている。また、児童生徒のよさを生かした教師のコーディネートが多く見られる。
- 各中学校区内における学校間の連携体制・協体制が確立しており、学力向上対策や生徒指導対策について、継続的な指導・支援の推進が図られている。また、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)等を中心に、地域との連携推進が図られている。

会津の課題【令和7年度全国学力・学習状況調査結果、学校訪問等から】

- 全国学力・学習状況調査において全国平均正答率と比較すると、小・中学校ともに各教科において平均正答率が下回っている状況にある。ふくしま学力調査においては、小4では国・算とも県平均を上回っているが、小5以降は県平均を下回っている状況にある。
- 「深い学び」の達成に向けた授業改善が必要であり、これまで以上に育成すべき資質・能力を明確にし、「みる・きく・つなぐ」の授業観による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業づくりが求められる。
- 不登校児童生徒が年々増加傾向にあり、1,000人あたりの出現率が全国平均や県平均を上回る状況が見られるため、授業をはじめとする学校教育全体の魅力化や、一人一人の児童生徒への寄り添い、関係機関との連携などのさらなる促進が求められる。

学びをつなぐ・育ちをつなぐ会津の教育

確かな学力

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現
- 2 学習の連続性を持たせる基盤づくり
- 3 学力向上対策の組織的な推進による授業改善
- 4 カリキュラム・マネジメントの充実
- 5 教科の指導と生徒指導の一体化

居場所づくりと絆づくり

- 1 不登校の未然防止・早期発見・早期対応
- 2 いじめ見逃しゼロ
- 3 情報モラル教育の充実
- 4 心に響く道徳教育

共に学び、共に生きる教育

- 1 校内支援体制の充実
- 2 ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

健やかな体

- 1 体力向上と健康推進
- 2 教育活動全体による食育の推進

育ちをつなぐ学び

- 1 キャリア教育の推進
- 2 幼保小連携の推進

第七次福島県総合教育計画

令和八年度学びの変革推進プラン

じいちゃんの生まれた村で何を為す？

昭和村教育委員会教育長 長沼 敬貴 氏

私の母方の祖父は昭和村で生まれ育ち、母も小中学校時代を昭和村で過ごしました。また、私自身も小学生の頃は夏休みになると祖父の家を訪れ、魚釣り、農作業などを楽しんだことが思い出されます。

そんな私が、縁あって昭和村の教育長に就任し、約1年が経過しました。私が知らない方でも、祖父や母を知る方から声を掛けられることも多く、多少のプレッシャーを感じながら、職務にあたっています。本村の教育は、社会教育、学校教育ともに、様々な工夫を凝らしながら特色ある教育活動を展開しています。今回は紙面の関係上、学校教育における取組の一部を御紹介します。

本村の小中学校は各1校で、児童生徒数は、合わせて38名です。この小規模校で機動力があることを強みと捉えて、保育所を含めた保小中一貫の特色ある教育活動に取り組んでいます。

その一つ目は、地域の特性をいかした「しょうわ科」の学習です。夏秋期の収穫量日本一のカスミソウ栽培について学ぶ「花育」、伝統産業であるからむし織に

ついて学ぶ「苧麻育^{ちまいく}」など、地域の「ひと・もの・こと」を十分活用して、地域のよさを学び、村外に発信する学習に取り組んでいます。

二つ目は「小中乗り入れ授業」です。中学校の教員が複数教科（書写、社会、理科、英語）の授業を年間通して実施しています。また、小学校の養護教諭が中学校で保健指導を行っています。その他、小中学校が公民館を会場に合同で実施する「小中合同文化祭」も小中一貫教育の代表的な取組です。

これらの取組を一つ一つ積み重ね、より充実させることで、故郷を愛し、誇りに感じるとともに将来の昭和村に貢献できる人材を育成したいと考えています。そして、それこそが、私が「じいちゃんの生まれた村で為すべきこと」であると信じ、精一杯努めていきたいと思えます。



我がまちからの情報発信

柳津町教育委員会

「やってみたい」は、放課後に。 子どもの心が動くとき、地域の未来も動き出す

「こわれたら、どうしよう?」「うまくいかなかったら、どうなるのだろう?」

子どもたちの心は、不安と期待が入り混じる瞬間にこそ、大きく動きます。本来、思い通りにいかないことや失敗は、避けるべきものではなく、新しい発見や創意工夫へとつながる大切なきっかけ。しかし、AIやデジタル化が進む今日、迷いながら考える時間よりも、早さや効率が重んじられがちな時代です。そうした風潮が、子どもたちの自由な発想や挑戦する心、さらには自分を信じる力までも、知らず知らずのうちに狭めてしまうことも少なくありません。

試してみることに。やり直してみることに。思い通りにならない変化を受け入れてみることに。そうした経験の積み重ねが、子どもたちの知的好奇心や挑戦する力、仲間と協力する力を育てていきます。柳津町中央公民館では、この「楽しい」と「学び」が重なり合う時間を大切に、放課後子ども教室に取り組んでいます。それは単なる預かりの場ではなく、学校や家庭に加え、地域の多様な大人たちと出会い、社会の中で自分を育てていく、もう一つの学びの場です。

教室では、子どもたちが自ら手を動かし、考え、仲間と関わりながら挑戦できる活動を行っています。スライムボトルづくり、泥だんごづくり、積みコップ大会など、答えが一つではない遊びの中で、子どもたちは試行錯誤する楽しさを自然に学んでいます。うまくいかなければ、やり直せばいい。友だちの工夫に刺激を受け、自分の発想がまた

広がっていく。教室には、そうした学びが連鎖する風景があります。

これらのプログラムは、「こどものにわ」主宰の榎田拓哉氏を講師に迎え、ともに育ててきました。子どもたちがシンプルに「楽しい」と思えることを起点に、知的好奇心や探究心を引き出す実践です。教室の中からは、公民館コインを使った駄菓子屋体験も生まれました。また、トントンすもう大会では、地域の高齢者が出稽古に訪れ、子どもたちと本気で勝負する姿が会場を沸かせています。地域のおかあさんたち、中学生、シニア世代も自然に関わり、世代を超えて学び合う風景が広がっています。

子どもを育てることは、地域を育てること。子どもたちの「やってみたい」が、大人たちの「やってみっか」を呼び起こし、人と人とのつながりをもう一度動かしていく。柳津町の放課後には、未来の地域を動かす芽が、静かに、そして確かに育っています。



各集落の土からつくる「どろだんご」

令和8年度 会津教育事務所推進プラン

強み	域内の現状	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、協働的な学びを推進している学校が多い。 ○ 生徒指導の機能を生かしながら、児童生徒が互いに認め合えるような学級集団づくりに取り組んでいる学校が増えている。 ○ 各市町村の社会教育が充実し、地域学校協働本部の設置及び学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の導入が進んでいる。 ○ 特別支援学級や通級指導教室における特別の教育課程編成の工夫や自立活動の指導の充実に取り組んでいる。 ○ 体力・運動能力調査結果分析による運動身体づくりプログラムの全校実施(小)、授業内外の補強運動の実施(中)など、組織的な取組により、体力向上が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小・中学校ともに学力調査の平均正答率が低い。 ● 「みる」「さく」「つなぐ」の授業観による「個別最適化学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業づくりが求められる。 ● 不登校数が小学校で増加傾向にあり、小・中学校ともに出現率が全国・県平均よりも高い。 ● 地域社会における支え合いやつながりの希薄化により地域の教育力が低下している。 ● 個別の教育支援計画や個別の指導計画が交流及び共同学習の場で十分に活用されていない。 ● 肥満傾向児出現率が改善傾向にあるが、全国平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小・中学校ともに学力調査の平均正答率が低い。 ● 「みる」「さく」「つなぐ」の授業観による「個別最適化学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業づくりが求められる。 ● 不登校数が小学校で増加傾向にあり、小・中学校ともに出現率が全国・県平均よりも高い。 ● 地域社会における支え合いやつながりの希薄化により地域の教育力が低下している。 ● 個別の教育支援計画や個別の指導計画が交流及び共同学習の場で十分に活用されていない。 ● 肥満傾向児出現率が改善傾向にあるが、全国平均より高い。

人間力に満ちた人材の育成 ～ 学びをつなぐ・育ちをつなぐ会津の教育 ～

<推進ビジョン> 域内の市町村教育委員会、小・中・高等学校長代表者会をはじめとする地域や関係機関と連携し、学校・家庭・地域が一体となって、人間力に満ちた人材の育成に努めます。

※人間力に満ちた人材…学習や経験から学んだ様々な力を生かして、自らの道を切り拓き、社会に貢献することができる人材

視点① 「学びの変革」の推進【施策1・2・6】

- 域内の実態を踏まえた「指導の重点」を前期・後期に作成し、学校訪問や各種研修会で「確かな学力」の向上を図るための支援を充実させます。
- 「ステップアップAizu」を開催し、具体的・実践的な授業の進め方や学習方法等の講義・演習を行い、教員の指導力向上を支援します。
- ふくしま情報モラル診断等による児童生徒の実態把握の普及とともに、ICTを効果的に活用した授業の周知、徹底に努めます。
- 各校で個に応じた指導の実現に向け、全国・県学力調査の分析・活用方法に関する研修を実施します。

視点② 人間性・社会性の育成【施策3】

- 域内シンボジウムや教育相談リーダーシップ研修会等で不登校等の未然防止・初期対応の研修を充実させ、学校の教育相談体制づくりを支援します。
- 児童生徒一人一人の夢や進路実現に向けた温かみのある学級風土づくりや、主体的な生活態度の育成に向けた指導助言を通して、不登校出現率の低下を目指します。
- 道徳教育の充実を図るため、道徳推進協議会等で「考え、議論する道徳」授業の成果を普及します。

視点③ 健康・安全に関する指導の充実【施策5】

- 学校訪問等で肥満等の健康課題に対応した実践事例を提供し、保健・安全教育の充実を図ります。
- 「自分手帳」活用についての研修会で有効な事例を周知し、健康マネジメント力の育成を支援します。
- 各種研修会や学校訪問等において、各校の体力向上推進計画の見直し・改善を助言し、体力向上と運動習慣の定着を支援します。

視点④ 家庭の教育力・地域の教育力の向上【施策3・4・5】

- 家庭教育支援の充実を図るため、家庭教育支援者の養成及びスキルを高める研修会を実施し、「家庭教育支援チーム」の設置を促進します。
- 関係者間の連携強化を図るため、教職員及び社会教育関係者等を対象に「地域学校協働研修会」、「地域連携担当教職員等研修会」を開催します。
- 地域の実態に応じた、市町村公民館職員等を対象とした公民館訪問や社会教育研修会を開催します。

視点⑤ 切れ目のない支援体制の整備【施策3】

- 校内支援体制の充実と教員の専門性の向上を支援するため、特別支援教育研修会等の充実を図ります。
- 合意形成に基づく「個別の教育支援計画」の作成・活用・引き継ぎ、合理的配慮の提供によるきめ細かな児童生徒支援の充実を図るため、各園・校のニーズを踏まえた相談支援・研修支援を実施します。
- ユニバーサルデザインの見点による学級経営や学習指導の研修会を開催し、一人一人のニーズに応じた実践力の向上を支援します。

視点⑥ 持続可能な教育環境づくり【施策2】

- 教職員の心身の健康保持や児童生徒と向き合う時間・自己研鑽の時間を確保するため、管理訪問等の指導助言により「教職員働き方改革アクションプラン」に基づく取組の推進を図ります。
- 学校全体の教育力向上を図るため、校長研修会等において内容を充実させ、校長によるチームとしての学校マネジメントが機能するよう支援します。
- 域内服務倫理対策会議等、様々な機会を捉えて管理職としての危機管理意識の向上や教職員の倫理観・使命感の高揚を図る取組を支援します。

「令和8年度学びの変革推進プラン」の実現を目指す

- 施策1：「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する
- 施策2：「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の力を最大にする
- 施策3：学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる
- 施策4：福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する
- 施策5：人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる
- 施策6：安心して学べる環境を整備する